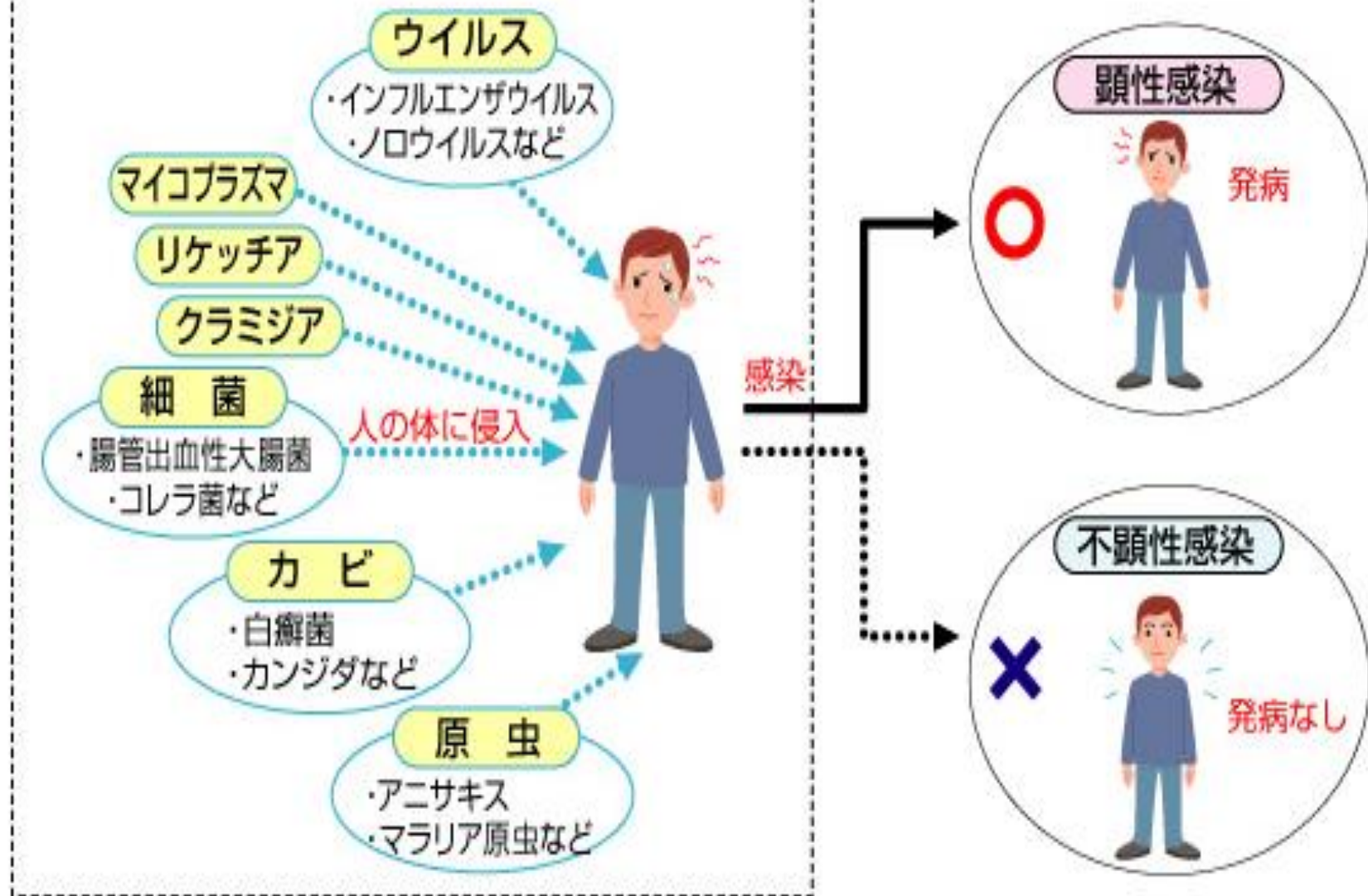


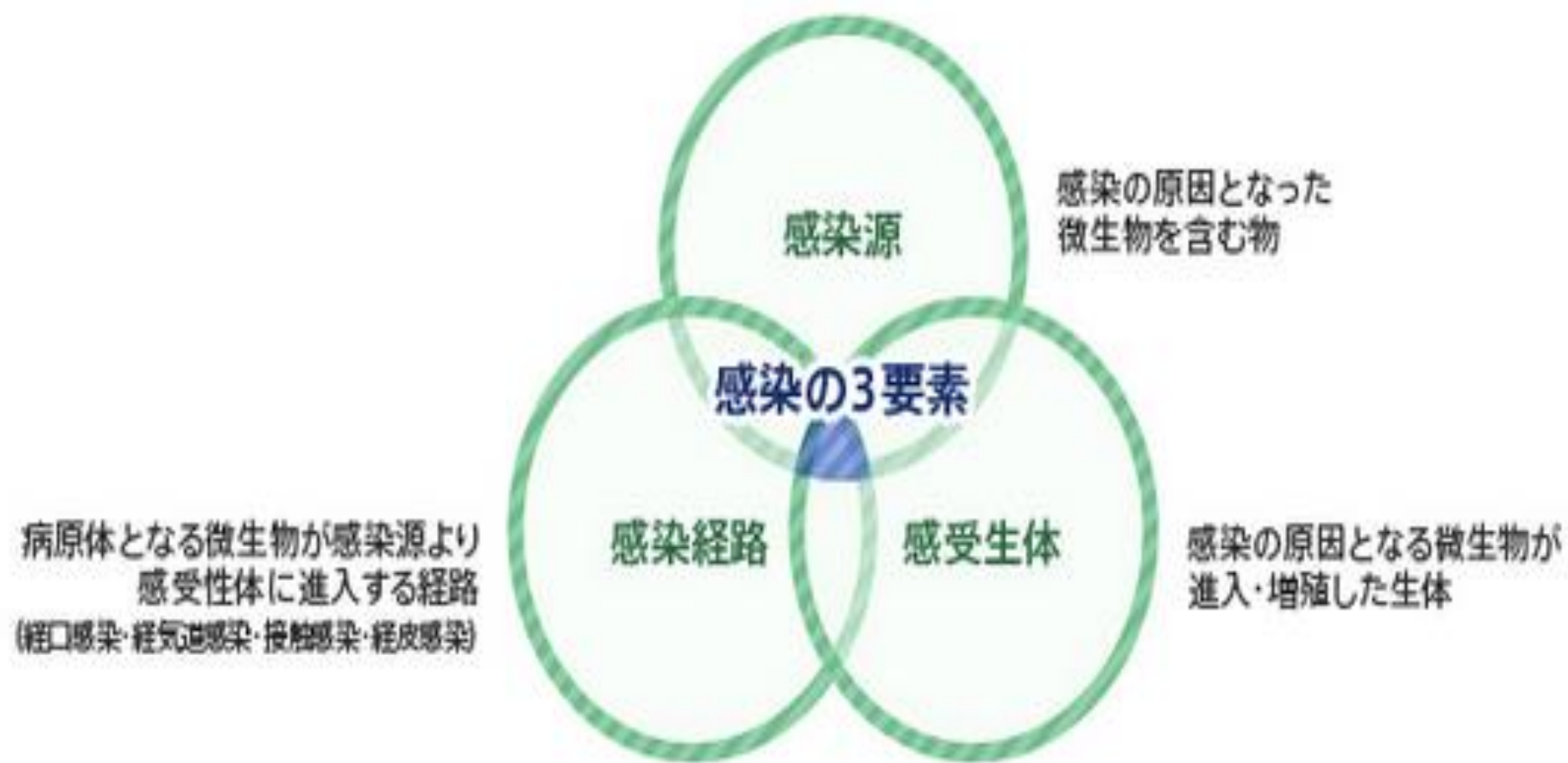
感染対策・予防



楽しいちデイサービス
北村 礼子

環境中に存在する病原微生物





感染経路

体のどこから感染するのか

① 経気道感染

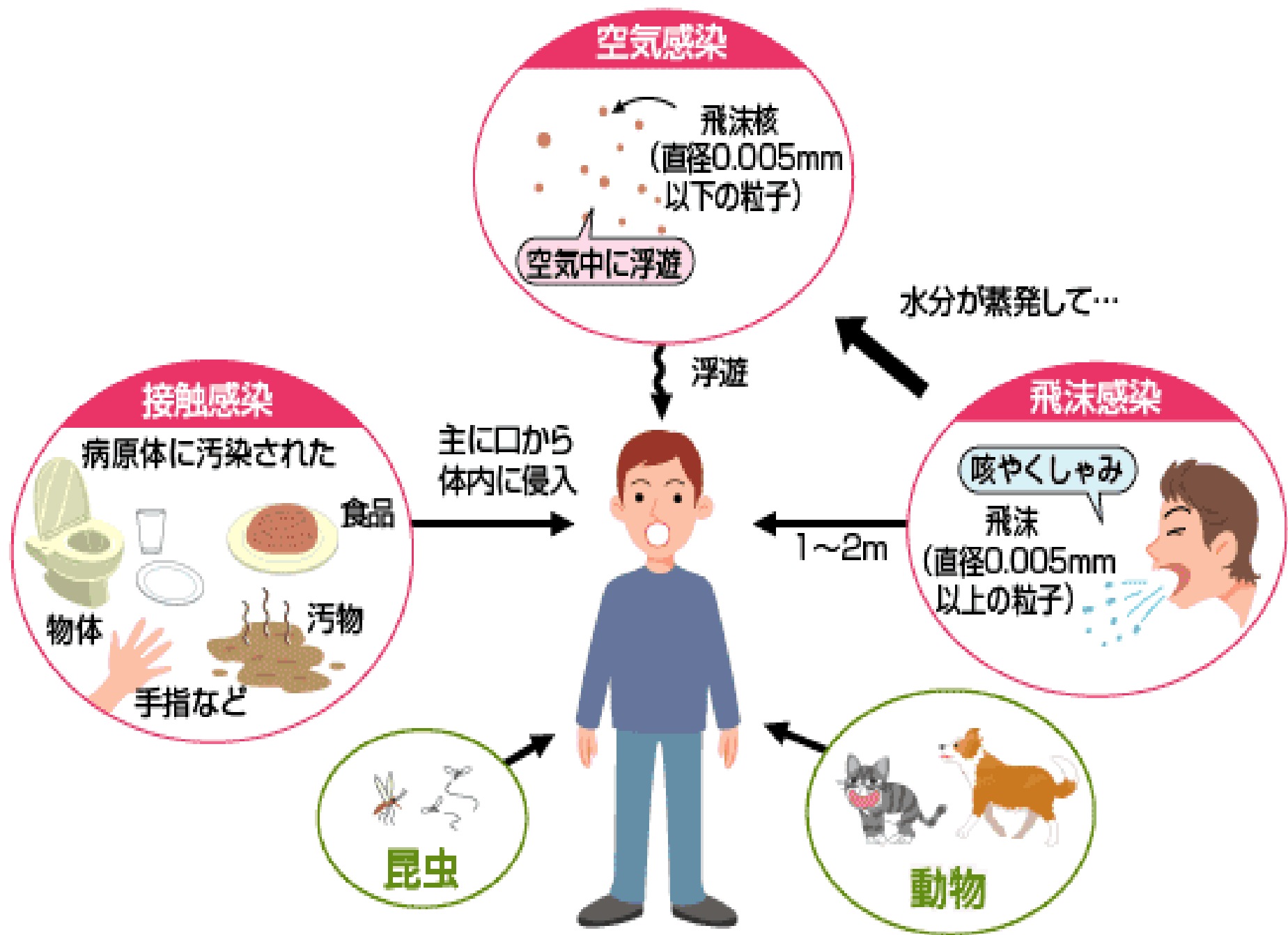
- 飛沫感染
- 空気感染

② 経口感染

- 食品媒介感染
- 糞口感染

③ 経皮感染

- 接触感染
- 性行為感染など



① 経気道感染（空気感染・飛沫感染）

感染経路	特徴	病原体
空気感染	咳、くしゃみなどで飛沫核（5 μ m以下）として伝播する。空中に浮遊し、空気の流れにより飛散する。	結核菌 麻疹ウイルス 水痘ウイルス等
飛沫感染	咳、くしゃみ、会話などで感染する。飛沫粒子は1m以内に落下し、浮遊し続けることはない。	インフルエンザウイルス ムンプスウイルス等

対策（空気感染・飛沫感染）

- 咳や痰がでている場合は、マスク着用の徹底。通常のマスクでよい。
- 咳が2週間以上続く場合は、結核も疑う。医療機関で検査を受けてもらいましょう。

②経口感染（食品媒介感染・糞口感染）

感染経路	特徴	病原体
食品媒介感染	いわゆる食中毒で、病原体により引き起されるもの。	腸管出血性大腸菌、サルモネラ菌、腸炎ビブリオ菌等
糞口感染	便からの病原体について汚染された手や口や食品から経口的に感染。	A型肝炎ウイルス、ノロウイルス等

③経皮感染（接触感染・性行為感染）

感染経路	特徴	病原体
接触感染	手指などを介して感染	MRSA、緑膿菌等
性行為感染	性行為により感染	HIV、梅毒、 B型肝炎ウイルス等

主な感染症の潜伏期間

- インフルエンザ 1～5日（平均3日）
- 結核 2年以内特に6か月以内が多い
- ノロウイルス 1日～1日半

対策（経口感染・経皮感染）

- 手洗いの励行。
- 排泄物を扱う場合は手袋やガウンの着用。

感染予防に
手を
洗いましょう！
➔



手洗いをしそこないやすい部位

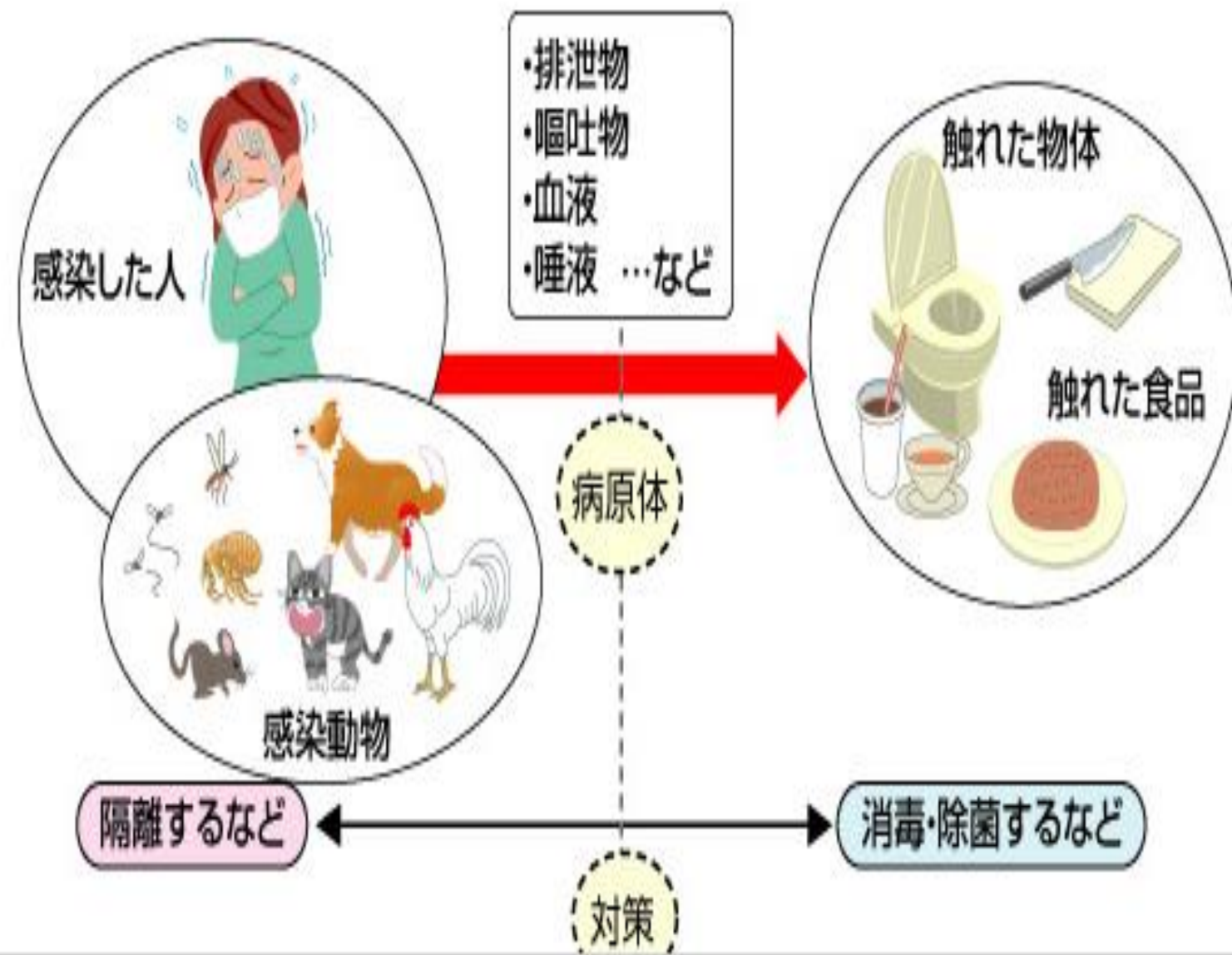


出典

Taylor, L. J : An evaluation of handwashing technique, J. Nursing Times 12 : 54-55, 1978

感染対策の3つの柱

- 1 感染源の排除
- 2 感染経路の遮断
- 3 宿主(人間)の抵抗力
(健康状態・免疫状態)



標準予防策（スタンダード・プリ(レ)コーション）

具体的な対応例	項目
感染の可能性のあるものに触れた後 手袋を外した後 他の患者・利用者に接する前	手洗い
感染の可能性のあるものに触れる時 便・嘔吐物の処理後、ドアノブ・手すり等の環境面の触れる前 他の患者・利用者の所に行く時には手袋を外し、手洗いをする	使い捨て手袋
咳や痰の多い利用者の介護・処置を行う時 便や嘔吐物等が飛び散って、目・鼻・口を汚染しそうな時 職員・患者・利用者、咳・くしゃみのある時	マスク
衣類が汚染しそうな時 （汚れたガウンはすぐに脱ぎ手洗いを行う）	ガウン
環境を汚染させる恐れのある利用者は個室対応とする	利用者の配置

標準予防策

病原体への対策

感染経路への対策

感受性宿主への対策

○ 感染症の有無に関わらず、



- ・ 患者さんと接するときにはマスクをする
- ・ 汚れた手袋・ガウンはすぐに外し、手洗いをする
- ・ 入室時、部屋を出るときに消毒薬を使用
- ・ 使用済み針はキャップをする など

施設における感染管理体制

- 感染対策委員会の設置
- 職員の健康管理
- 職員研修の実施等



感染症が発生したら...

- 1 感染の発生状況の把握
- 2 感染拡大の防止
- 3 医療処置
- 4 行政への報告

楽しいちデイサービスでの感染予防対策



感染症発生がリスクなのではない！

リスクについての情報共有がなされていないこと

例：インフルエンザは人口の5～20%が罹患する
リスクをゼロにすることはできない

まずは予防！

発生時の対応の周知！

ご清聴ありがとうございました

